

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報処理入門Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
パソコンの基本的な活用を習得した上で、さらに実践的な技術身につけることを目的とした科目。具体的にはパワーポイントを学び、効果的なプレゼンテーションを身につける。また、ホームページ作成について学ぶことにより、ITに強い保育者の養成を目指す。また、Web利活用に関するマナーを学び安全で効率的なIT活用技術を身につける。				
授業終了時の到達目標				
パワーポイントの習得。 Web活用の際のマナーについて学ぶ。 紙芝居作成				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
1年次に学習した基本的な操作について再度勉強しておく				
回	テーマ	内容		
1	パワーポイントとは	パワーポイントの概要		
2	"	プレゼンテーションの作成①		
3	"	プレゼンテーションの作成②		
4	"	プレゼンテーションの作成③		
5	"	プレゼンテーションの作成④		
6~7	特殊効果の設定	アニメーションの作成技術		
8~15	紙芝居作成	パワーポイントを使って紙芝居作成		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 試験 20% 提出物 20% 授業態度

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
働くとはどのようなことなのかをベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識を中心に授業を行う。 就職先決定時～就業開始までの過ごし方を、生活面・精神面を中心に指導する。				
授業終了時の到達目標				
社会人としての教養を身につける。 ビジネスマナーの基礎知識と一般常識全般を学ぶ。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
周辺の園について各自で調べる				
回	テーマ	内容		
1	就職先決定から就業開始までの過ごし方①	留意事項、学校生活、家庭生活		
2	就職先決定から就業開始までの過ごし方①	新たな目標の設定、方法の策定		
3	ビジネス文書①	表記技能①(総合・用字)		
4	ビジネス文書②	表記技能②(用語・書式)		
5	ビジネス文書③	表現技能①(正確な文章)		
6	ビジネス文書④	表現技能②(わかりやすい文章)		
7	ビジネス文書⑤	表現技能②(礼儀正しい文章)		
8	ビジネス文書⑥	実務技能①(社内文書の書き方)		
9	ビジネス文書⑦	実務技能②(社外文書の書き方)		
10	コミュニケーション技術①	聴く力(傾聴、ペーシング、オートクライン、沈黙、アンカリング、他)		
11	コミュニケーション技術②	話す力(結論先行、ビジュアルライズ、要約、明確化、他)		
12	コミュニケーション技術③	コンピテンシー演習		
13	自己分析(未来へ)	自己分析の再編		
14	目的・目標・手段	自己年表の作成1		
15	目的・目標・手段	自己年表の作成2		
16	まとめ	自己年表の発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
オリジナル教材及びレジュメ		総合評価	100.0%	【採点内訳】 70% 提出物 30% 授業態度

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育原理		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
保育の意義及び目的を理解し、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組みについて深める。法令及び制度としての保育所の役割や目的の理解とともに、保育所保育指針において保育の基本を理解し、保育の目的や意義を考察する。また、保育の思想や歴史を概観することから、現代の保育との関連性や現代社会の抱えている子どもの課題を考察する。				
授業終了時の到達目標				
保育所保育指針における保育の本や保育の歴史の変遷について学び、呆について基本的な内容を理解する。また、様々な保育を取り巻く環境をふまえ、保育の現状と課題について本質を探究でき、自分なりの見解を持つことが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、関心を持った事柄については授業で協議の内容を深めるきっかけとする。				
回	テーマ	内容		
1	・保育とは ・乳幼児の特徴と保育の意義とは	・保護と教育 ・人間の子どもの特質と保育の必要性		
2	・乳幼児期の発達的特質 ・幼児の思考の特徴とは	・身体的、感覚的発達の特質 ・自我の発達と幼児の思考(言葉、情動、社会的発達)		
3	・保育思想と児童観の変遷	・古代、中世、近世から近代へ 近代幼児教育思想の形成(児童観の転換)について		
4	・近代保育施設と制度の創設と発展 ・各国の保育を学ぶ	・創設、発展に寄与した代表的人物を知る・各国の保育の発展と児童観		
5	・我が国における幼稚園、保育所の成立と変遷	・幼稚園、保育所の保育目的と規定および保育所の種類・保育内容の変遷と内容		
6	・保育の内容、方法、計画、評価	・保育の方法形態の分類について・保育方法の基本原則について		
7	・保育の計画と記録のとり方	・教育課程と保育課程 ・カリキュラムの作成について		
8	・保育の計画と記録のとり方	・遊びの意義と子どもの実態把握について ・記録のとり方について		
9	・保育の評価とは	・指導計画の評価とは ・指導結果の評価について		
10	・保育の評価とは	・保護者との連携のとり方		
11	・様々な保育と課題について	・幼稚園と保育所の今後と主な動向 ・幼保一元化と認定こども園		
12	・保育の多様化と課題	・保育所民営化と保育への企業参入 ・地域子ども、子育て支援事業と内容について		
13	・保育の多様化と課題	・保育の多様化と課題についての協議		
14	・科目終末試験設題からの授業復習	・設題から課題を見つけ協議し、保育の本質を探究する。 ・協議する中で、保育に対する自分なりの見識を持つ。		
15	・公務員試験過去問からの授業復習			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・保育原理(近畿大学九州短期大学テキスト) ・現場の視点で学ぶ保育原理(教育出版) ・保育所保育指針・幼稚園教育要領 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(文部科学省・厚生労働省・内閣府) ・自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・授業態度 20% ・レポート 20% ・テスト60%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭福祉		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの犯罪・虐待、また家族機能の変化などによって、子どもの健やかな成長が妨げられている現状について自ら問題意識を持ち、児童家庭福祉における今後の課題としてどのように取り組んでいくべきか総括的に考察できる力を養う。また、「子どもの人権」を守るための児童家庭福祉の役割と課題について理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
児童福祉の中における「保育」、「養護」の役割を知る。 児童福祉法における保育士の役割をしる。 児童福祉施設の役割を知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院に5年間勤務し、社会福祉士・精神保健福祉士として子どもから大人までの福祉について精通。		
時間外に必要な学修				
児童に関する今後の課題について調べる				
回	テーマ	内 容		
1	現代社会における児童家庭福祉の理念と歴史の変遷	「児童」の捕らえ方 児童家庭福祉の理念		
2	〃	児童家庭福祉の歴史の変遷		
3	現代社会と児童家庭福祉	小子化の進展・家庭のあり方		
4	〃	子どもの貧困問題の深刻化・いじめをめぐる問題		
5	児童家庭福祉の制度と実施体系	児童福祉六法		
6	〃	児童家庭福祉の行政と実施機関		
7	〃	児童福祉施設とは		
8	児童家庭福祉と保育	児童家庭福祉の目的と児童の人権 子どもの発見		
9	〃	保育とは・保育サービスの現状		
10	〃	多様な保育ニーズへの対応		
11	児童家庭福祉の現状と課題	少子化と子育て支援サービス・母子保健サービス		
12	〃	児童虐待防止・DV		
13	〃	障害のある子どもへの対応		
14	〃	少年非行等への対応		
15	児童家庭福祉の動向と展望	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
児童家庭福祉		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 試験 20% 提出物 20% 授業態度

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭支援論		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西林 久美子
授業の概要				
子育て家庭に対する支援の意義・目的・役割を学ぶ。保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解した上で、子育て家庭に対する支援の体制を学ぶ。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子育て家庭に対する支援の意義・目的・役割を理解する。保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童デイサービス(現 放課後等デイサービス) 事業所 やったーまん!! 15年勤務		
時間外に必要な学修				
授業内容の復習、子ども子育てに関する新聞・ニュース記事を調べる。				
回	テーマ	内容		
1	家庭支援が求められる背景と意義について	家庭支援が求められる背景として家族の機能や地域社会の変化があげられ、家族と地域を育て結びつけていくことに意義がある。		
2	家庭と家族について	家族の形態や変動について。多様化する家族について。		
3	家族の機能について	家族の機能とは何か。近代化以前、近代化後、現代における家族の機能の変遷や、課題について		
4	子育て家庭を取り巻く地域社会の変遷について	近代化以前、近代化以後。現代における地域社会の変遷。		
5	家庭支援における保育者の役割について	家庭支援における保育者の様々な役割、保育所保育指針、幼稚園教育要領。保育者の姿勢について		
6	保育教育現場に求められる家庭支援について	子どもの保育教育と密接した保護者支援について		
7	在宅子育て家庭への支援について	在宅子育て家庭への支援の必要性、援助技術、姿勢について		
8	家庭支援に関わる法・制度について	子どもの権利条約をはじめ、子供や子育てに関する様々な法律や制度について		
9	子どもと家庭を支える機関や人について(1)	子どもと家庭を支える専門機関について		
10	子どもと家庭を支える機関や人について(2)	子どもと家庭を支える地域活動について		
11	子どもと家庭を支援する事業やサービスについて(1)	子どもと家庭を支援する事業の類型について		
12	子どもと家庭を支援する事業やサービスについて(2)	子どもと家庭を支援するそれぞれの事業について		
13	障害のある子どもと保護者への支援について	障害への気づき、神殿も困り感と家族の理解。多職種との連携について		
14	虐待家庭への支援について(1)	虐待事例の近年の傾向、発見・通告、保育者の役割について		
15	虐待家庭への支援について(2)	虐待事例での保護者への支援について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房		総合評価	100.0%	【採点内訳】 筆記試験 90% 授業態度 10%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育の心理学		こども保育学科/2年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について学び、心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験・環境の意義が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として10年勤務		
時間外に必要な学修				
乳幼児期の発達段階を学習する。				
回	テーマ	内容		
1	発達心理学	発達心理学とは		
2~3	遺伝と環境			
4~5	赤ちゃんの発達	原始反射～愛着		
6~7	思考能力	ピアジェの思考の発達段階		
8	遊び	遊びの種類		
9~10	友達関係	友達関係から学ぶことや役割について		
11	行動主義	学習理論について		
12~13	小学校との連携	連携における大切なことや課題について		
14~15	内発的動機づけ、外発的動機づけ	スキナーやパブロフなど		
16	まとめ	これまでの学習の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト 70% 授業態度 30%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭支援の心理学		こども保育学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
生涯発達と初期経験の重要性を理解する。 家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	幼稚園教諭10年 現場経験を活かし、子どもの発達からみて初期経験の重要性を伝える。			
時間外に必要な学修				
身近で出会う乳幼児をよく観察し、子どもの発達を学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1~2	乳児期・幼児期の発達	原始反射・表情・運動発達(乳児期) 認知・言語・社会性・自我の発達(幼児期)		
3~4	学童期・青年期の発達	認知の発達・社会性の発達・自己発達(学童期) 身体の発達・認知に発達・自己の発達(青年期)		
5~6	青年期・中年期・高齢期の発達	身体の発達・認知の発達(青年期) 中年期危機とは・職業にかける課題(中年期) 生涯発達における高齢期とは(高齢期)		
7	家族・家庭の意義と機能	家族とは		
8	家族関係・親子関係	家族のライフスタイル 親子とは		
9	子育ての経験と親としての育ち	子育て		
10	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化・出産・子育て		
11	ライフコースと仕事・子育て	ライフコース		
12	多様な家庭とその理解	多様な家庭と家族		
13	特別な配慮を要する家庭	子育てが難しい母親の理解		
14	子どもの生活・生育環境とその影響	生活習慣と体質		
15	子どものこころの健康にかかわる問題	きになる子どもの障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子ども家庭支援の心理学		総合評価	100.0%	【採点内訳】 レポート 70% 授業態度 30%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの保健		こども保育学科/2年	2021/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。これらを踏まえて、子どもの疾病の予防法と対応について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解した上で、子どもの身体的な発育・発達と保健について学ぶ。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		開業助産師として妊産婦や地域の子育て支援、障害児の訪問看護を通して経験したことを教育に生かすことができるようにする。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	子どもの保健とは①	身体発育、生理機能について理解する。		
2	子どもの保健とは②	運動機能、精神機能について理解する。		
3	子どもの食事①	母乳栄養、人工栄養について理解する。		
4	子どもの食事②	離乳食について理解する。		
5	虐待	事例を通して虐待の実際について理解する。		
6	子どもの病気①	アレルギー		
7	子どもの病気②	ウイルス感染症について理解する。		
8	子どもの病気③	細菌感染症について理解する。		
9	子どもの病気④	予防接種について理解する。		
10	子どもの病気⑤	消化器		
11	子どもの病気⑥	循環器		
12	子どもの病気⑦	呼吸器		
13	子どもの病気⑧	泌尿器		
14	子どもの病気⑨	その他の病気		
15~16	統計	国民衛生の動向を参考資料に使い、母子保健の現状の理解を深める		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近大テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト30% 授業態度20% 課題・レポート50%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの食と栄養		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	久留嶋 典子
授業の概要				
<p>1. 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解させる。</p> <p>2. 食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児期、思春期の心身発育と発達について説明できる。 ・食生活が人間の成長、生涯にわたる健康的な生活の基礎となることを理解し、バランスのとれた献立を考えることができる。 ・子どもが喜ぶ食育メニューを衛生的に作ることができる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
<p>まずは、自分の食事バランスや生活習慣をより良いものにするために、目標を立ててみましょう。そして、すこしずつ実践してみてください。</p>				
回	テーマ	内容		
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもや保護者を取りまく食生活の現状と課題について		
2	栄養に関する基礎知識	三大栄養素 五大栄養素について 食材を分類する		
3	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について 炭水化物 脂質		
4	栄養に関する基礎知識	消化吸収のしくみ		
5	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について 無機質 ビタミン		
6	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について たんぱく質		
7	子どもの発育・発達と食生活	発育・発達の基本的考え		
8	乳幼児の授乳の意義と食生活	乳児期の栄養・食生活の特徴について 母乳、人工栄養について		
9~10	離乳の意義と食生活	基本の調理 お粥 出汁の取り方 茹でる 漬す		
11~12	間食の意義	スイートポテト ハロウィンスイーツ(かぼちゃプリン)		
13~14	保育における食育の意義・目的	粉からこねるピザづくり 見た目もカラフル栄養満点ピザづくり		
15~16	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギー対応の米粉ロールケーキ フルーツジャム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子どもの食と栄養 北大路書房		総合評価	100.0%	毎回、授業中に課題または小テストを出します。 期末試験は授業中に説明した内容から出題します。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と造形表現		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	中村 典子
授業の概要				
子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。表現技術の一つとしての造形に関する知識や技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
作品の制作・発表を通して、造形表現におけるコミュニケーション力をつける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		専門学校講師 24年 中学校美術講師 2年 子どもへの美術ワークショップなど		
時間外に必要な学修				
自己表現とコミュニケーション能力の形成についての考察				
回	テーマ	内容		
1~4	パペットシアター 1. パペットの下描き・ストーリー制作 2~3. 塑像(粘土)で動物の頭と手を作る 4. 舞台背景作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5分程度で主な登場人物2名程度のストーリーを考える ・ パペット下描きは色鉛筆で着色 ・ 紙粘土を使って動物の頭と手を制作 ・ 絵具を混ぜ込むことでの混色や紙粘土成型を学ぶ ・ ダンボールなどを使って家や森などの背景制作 ・ リサイクル工作を学ぶ 		
5~8	パペットシアター 5~6. パペット着衣制作 7. 舞台背景作り 8. パペットシアター発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 布を使ってパペットの服づくり ・ 縫わない服づくりを学ぶ ・ 笑顔で 大きな声で わかりやすい発表を練習する ・ 楽しいパペットシアターを体得する 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 40% 課題作品 60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と健康		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
「体育」の意義と保育の中での位置づけを学ぶ。また、子どもの発達に応じた体育活動・教材・教具の内容を知り、子どもを主体にした「楽しい運動遊び」 体育の指導・援助を保育の場面を想定して実技を行いながら学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
幼児体育の重要な役割「楽しく遊ぶ力」を育てるプログラムづくり、「導入」→「展開」→「まとめ」を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所にて25年経験 障害児の体操指導3年経験 経験を活かし、幼児体育についてのプログラムづくりを身につける。		
時間外に必要な学修				
教科書に目を通しておく				
回	テーマ	内容		
1	幼児体育をどうとらえるか子どもの発達とつきたい力	自分の体を思い通りに動かせ、遊ぶ力を身につけさせる。		
2	自分の位置や動きを知る力	自分がどんな状態にあるのかをつかむと同時に、動いているボールや人との距離や間合いをはかる力を知る。		
3	転ばずに姿勢を維持する力について	不安定な足場や空中で身体を保ったり、体勢が崩れた時に上手に立て直す力の大切さを学ぶ		
4	手足や用具を操作する力	身体力を入れる、ちょっと抜く、ゆっくり力を入れるなどイメージ通りに体を動かせる力を調整する運動遊びプログラムを体験する。		
5	タイミングを合わせる力	動きにリズムやテンポをつけたり、ボールや人の動きとタイミングを合わせるなど実際体験する。		
6	情報にすばやく応じる力	人の動き、光や音など、外部からの情報をすばやく察知し、正しくスピーディに動き出す力を引き出すための運動遊びを考える。		
7	スムーズにムダなく動く力	いくつかの異なる動きをスムーズにつなげ、運動プログラムを考える。		
8	変化に応じて動きを変える力	状況に合わせて、とっさに動きを変えたり、適切な動きを選択・実行できたりする力を身につける。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児の運動あそび		総合評価	100.0%	【評価内訳】 授業態度：20% 提出物：10% 発表：70%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	佐藤 洋美
授業の概要				
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、計画の作成について、具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解し、援助や関わりの基本について理解できる。 3歳未満児の生活や遊びなどについて理解する。 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、計画の作成について、具体的に理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	開業助産師として地域の子育て支援に関わっている。			
時間外に必要な学修				
教科書による事前学習				
回	テーマ	内容		
1	乳児保育の必要性	社会的背景を考える		
2	乳児保育の成り立ち	歴史と現状について		
3	乳児保育に関係ある法律	児童福祉法、保育所保育指針について		
4	乳児のこころの発達	人見知りなど身近な人との絆作りについて		
5	乳児のからだ	発育と運動機能の発達		
6	保育所でのデイリープログラム	年齢別日課表		
7	保護者との連携	協力関係について		
8	発達の遅れ	保護者を支える		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
同文書院「はじめて学ぶ乳児保育」第二版		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 授業態度40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの健康と安全		こども保育学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応について、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解し、子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		開業助産師として地域の子育て支援に関わっている。また訪問看護師(19年間)として、障害児の養護に関わり家族支援を行ってきた。		
時間外に必要な学修				
教科書による事前学習				
回	テーマ	内 容		
1	子どもの健康と安全	健康と安全について		
2	子どもの健康と発育	成長と評価について		
3	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ	環境と養護について		
4	子どもの事故とその予防	事故やけがについて		
5	子どもに多い病状・病気とその対処及び予防	子どもの病気について		
6	障害を保つ子どもと家族へのかかわり	障害もつ子どもと家族について		
7	児童虐待	定義・予防・対処について		
8	災害の影響から子どもを守る地域との連携・協働	保護者と地域における専門職との連携・協働		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認テスト60% 授業態度 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害児保育		こども保育学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
<p>障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。特に幼稚園や保育所に多く在籍する知的障害を含む発達障害を中心に学ぶ。 障害や発達の遅れのある子どもにおいては、特に配慮の必要性があることを理解し、感覚、身体、運動、知的情緒、対人関係等理解を深め、保育的援助を学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>子どもの心身の発達、脳の発達について理解を深め、障害児、の理解また関心を持って取り組むことが出来る。 障害種ごとの症状、原因、心理の理解。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
日常的に興味、関心を持つ障害の情報についての事前学習。 事前にテキストに目を通す。				
回	テーマ	内容		
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ○障害児保育とは何か ○乳児期の発達課題と障害の特性 ○障害の特徴と保育での支援 ○障害児保育の体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場にいる障害のある子ども ・障害のとらえ方 ・障害児保育のあゆみ ・視覚障害、聴覚障害、肢体不自由児、言語障害 ・自閉症スペクトラム、注意欠如、多動性、学習障害 ・インクルーシブ保育とは ・保育所、幼稚園での支援体制 		
5~8	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭への支援 ○発達支援の技法 ○まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の子に向き合うとは ※ DVD視(自閉症の君が教えてくれた事) NHK放送 ・親、兄弟への支援 ・障害幼児の療育総論 ・療育の歴史、療育の状況 ・早期発見と早期治療と留意点 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・幼保連携認定こども園教育・保育要領 ・参考資おと配布 ・よくわかる障害児保育(近畿大学九州短期大学テキスト) 		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・授業態度 20% ・意欲 20% ・グループ協議への積極的参加 60%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児への特別な支援		こども保育学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。特に幼稚園や保育所に多く在籍する知的障害を含む発達障害を中心に学ぶ。障害や発達の遅れのある子どもにおいては、特に配慮の必要性があることを理解し、感覚、身体、運動、知的情緒、対人関係等理解を深め、保育的援助を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子どもの心身の発達、脳の発達について理解を深め、障害児への理解また関心を持って取り組むことが出来る。障害種ごとの症状、原因、心理の理解するし、発達的变化を促す援助について考えることが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年、乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
日常的に興味、関心を持つ障口の情報についての事前学習。				
回	テーマ	内容		
1	・ 障児保育とは何か	・ 保育現場にいる障害のある子ども ・ 障害のとらえ方と乳幼児期の発達課題と障害特性		
2	・ 障害児保育の仕組み	・ 障害児保育のあゆみと制度と形態について ・ 乳幼児健康診査と早期発見の重要性		
3	・ 障害の特徴と保育の実際 ・ 知的障害の特徴と保育での支援	・ 知的障害のとらえ方 ・ 保育現場における支援とは		
4	・ 自閉症スペクトラム障害の特徴	・ 障害のとらえ方と特徴と二次障害について ・ 個別配慮や小集団を利用した保育と支援のポイント		
5	・ 注意欠如、多動性障害の特徴と保育現場での支援	・ 障害のとらえ方と特徴について ・ 支援のポイントと二次障害について		
6	・ 学習障害の特徴と保育での支援 ・ 障害保育の体制づくり	・ 障害の種類と特徴と支援について ・ 保育所、幼稚園での支援体制とは(インクルーシブ保育)		
7	・ 支援の技法を学ぶ ・ 家族への支援と障害児へのアセスメント	・ 親、兄弟への支援 ・ 心理検査と愛着の評価		
8	・ 発達支援の技法	・ 療育とは(療育の現状) ・ 早期発見と早期療育の重要性 ・ 指導技法について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ よくわかる障害児保育(ミネルヴァ)尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ・ 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・ 授業態度 20% ・ レポート 20% ・ 確認試験 60%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についてや、施設養護及び他の社会的養護を学ぶ。これらを基本として個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。また、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法の技術について理解し、福祉についての理解や認識を深める。				
授業終了時の到達目標				
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院に5年間勤務 社会福祉士・精神保健福祉士として 福祉に精通		
時間外に必要な学修				
社会的養護Ⅰで学んだ内容について再度学習しておく				
回	テーマ	内 容		
1	社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務	児童の権利擁護 保育士等の倫理綱領		
2	社会的養護の実施体系	施設養護の特性及び実際 里親制度の特性及び実際		
3	支援の計画と内容および事例分析	個別支援計画の作成		
4~5	〃	日常生活支援・治療的支援・自立支援に関する事例分析		
6	社会的養護にかかわる専門的技術	保育士の専門性にかかわる知識・技術との応用		
7	〃	ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用		
8	今後の課題と展望	施設の小規模化と地域とのかかわり 社会的養護の課題と展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 確認試験 40% 授業態度

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子育て支援		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
現代のライフスタイルと福祉ニーズの変化に対応した社会福祉実践者が必要とされている。そこで、社会福祉で学習したことを基礎に、相談援助の目的を明確化し、児童福祉実践者としての専門的な「方法」を理解し活用できる専門技術を身につける。				
授業終了時の到達目標				
児童及び家族へのケースワークとグループワークが実践できる、児童及び家族の環境への介入ができる、保育士として求められる相談援助の理論と技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院に5年間勤務 社会福祉士・精神保健福祉士として 福祉に精通し 子どもから大人まで対象		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	相談援助の概要(1)	相談援助の理論、相談援助の意義、相談援助の機能		
2	相談援助の概要(2)	相談援助とソーシャルワーク、保育とソーシャルワーク		
3	相談援助の方法と技術(1)	相談援助の対象		
4	相談援助の方法と技術(2)	相談援助の展開過程		
5	相談援助の方法と技術(3)	相談援助の基本的技術		
6	相談援助の方法と技術(4)	相談援助の実践アプローチ		
7	相談援助の具体的展開(1)	計画・記録・評価、関係機関との連携		
8	相談援助の具体的展開(2)	社会福祉専門職、社会資源の活用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布。		総合評価	100.0%	【採点内訳】 提出物20% 平常点40% 発表40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育・教職実践演習		こども保育学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>1. 教育課程の全体を通して、保育士・教諭として必要な保育・教育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士・教諭、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する。</p> <p>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>以下の視点について理解し、習得、形成状況を把握している。</p> <p>①保育士・教諭の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理</p> <p>②社会性・対人関係能力</p> <p>③子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携</p> <p>④保育や子育て家庭に対する支援の展開</p> <p>自身の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己の課題を把握できている。その上で、目指す保育士像・教諭像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力が定着できている。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場経験を活かして、幼児教育者・保育者としての自覚と責任、専門的知識や技術などを伝える。		
時間外に必要な学修				
今までの学習や実習を振り返り、自己課題をみつける。				
回	テーマ	内容		
1~2	学びの振り返り	意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理		
3~4	学びの振り返り	社会性、対人関係能力		
5~6	学びの振り返り	子どもやその家庭の理解 職員間の連携、関係機関との連携		
7~8	学びの振り返り	保育や子育て家庭に対する支援の展開		
9~12	課題検討	保育・教育に関する課題の検討		
13~16	自己課題	各自の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己課題の把握		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育・教職実践演習		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度30% レポート50% 発表20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神保健		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
幼児にとって精神的健康の保持は身体的健康と同じ程度に重要なことである。そこで、精神の概念・動向・現代社会における意義と役割、精神障害の基礎知識、ライフステージ精神保健活動、精神保健福祉行政の仕組みと関連法規を学習し、社会福祉に携わる者にとっての精神保健の考え方について知る。				
授業終了時の到達目標				
子どもだけの問題として捉えるのではなく、養育者・地域といった様々な対象を把握し、包括的・総合的に精神保健をめぐる支援を行う際に、保育者に必要となる技術、視点、知識を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院にて援助業務を5年間 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。		
時間外に必要な学修				
青年期における精神疾患について調べる				
回	テーマ	内容		
1	保育者と精神保健	精神保健とは何か 心が健康であることとは		
2	"	精神保健活動を行う保育者に求められること		
3	精神保健の歩み	欧米における精神保健の歩み		
4	"	わが国における精神保健の歩み		
5	心の健康に影響を与える	家族関係と心の健康 社会のあり方と心の健康		
6	"	教育・保育と心の健康		
7	"	栄養と心の健康		
8	子どもの身体発育と精神保健	成長と発達 運動発達と精神保健		
9	"	精神発達と養育環境		
10	"	社会性の発達		
11	現代の子どもを取り巻く精神保健上の課題	発達障害の問題		
12	"	児童虐待(不適切な養育)		
13	子どもをめぐる地域の精神保健活動	医療と保育の連携		
14	"	保健師の行う地域保健活動との連携		
15	"	児童福祉施設における心のケア		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
よく分かる精神保健		総合評価	100.0%	【採点内容】 60% 試験 20% 提出物 20% 授業態度

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
青年心理学		こども保育学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
青年期の発達の特徴、身体の発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助等について学ぶ。青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通して保育を行うことができるための知識を学習する。				
授業終了時の到達目標				
青年期の発達の特徴、身体の発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年と文化、青年期の精神病理現象、青年期への心理的援助について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
青年期における悩みについて調べる。				
回	テーマ	内 容		
1~ 2	青年期と青年心理学	青年期とは エリクソンの発達理論		
3	青年期の思考と感情	思考、自尊感情、価値観などについて		
4~ 5	身体とジェンダー	ジェンダー、恋愛などについて		
6	自己とアイデンティティ	アイデンティティの確立について		
7~ 8	家族と友人	親子関係、友人関係について		
9~ 10	学校と学習	学校における人間関係や意欲などについて		
11~ 12	進路と就職	学校から職場への移行や職業観について		
13	社会	文化、流行、居場所などについて		
14	障がい	不登校、いじめ、摂食障害など		
15	大人になるとは	結婚、親、世代間関係について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 確認試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こどもと文学		こども保育学科/2年	2021/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>情操教育を考える上で、文学は必要不可欠なものである。また、美しい日本語に触れることは言語の発達に大きな影響を及ぼすものである。そこで年齢に合った絵本の選定方法や、読み聞かせの技術の習得を目指し、よりよい文学の環境設定ができるよう学びを深めていく。最後に子どもの年齢を設定し、絵本を選びそれに繋がるおもちゃ作りを制作し発表する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>児童文学の本質及び目的が理解できる。 児童文学の形成について理解し、具体的な事例を挙げることができる。 児童文学の歴史について、時代を区切って概観することができる。 幼児教育に必要な絵本・お話を具体的な実践例を挙げて説明することができる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
日本の昔ばなしと外国の昔ばなしを読む				
回	テーマ	内容		
1~2	児童文学とは	児童文学とは何か。児童文学の歴史と変遷。		
3~4	児童文学の種類	絵本、紙芝居、おはなし(特性、種類、必要性、選び方、読み聞かせの方法など)		
5	"	童話(特性、種類など)		
6~8	"	グループワーク(アンデルセン、イソップ、グリム童話、日本昔ばなしについて)		
9	"	ファンタジー、小説、童謡、詩、わらべうた		
10~11	絵本から遊びへ	絵本から関連するおもちゃ作り(わたしのワンピース)		
12~13	"	各自で子どもの年齢を設定し、絵本を選びそれに繋がるおもちゃ作りを制作。		
14~15	発表	各自で制作したものを発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 発表40% 製作物40% 授業態度20%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
<p>子どもの運動発達の順次制性や興味・欲求を理解する。その上で、明確な意図を持った保育計画を設定を考察できる力を養う。 指導案を作成、学園内の保育所にて発表を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育の中での運動遊びの重要性を知り「やってみたい」「楽しい」「続けたい」と言う欲求につなげていける体育指導を目指す。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	<p>幼稚園・保育所にて体育指導25年経験 障害児の体操指導3年 体育指導経験を活かし発達段階に沿った運動遊びの指導方法を伝える。</p>			
時間外に必要な学修				
テキストに目を通しておく				
回	テーマ	内容		
1	年齢に応じた遊びを考える	グループに分かれ遊びを考える		
2	グループでのディスカッション	グループでの運動遊びの内容の発表		
3~ 4	グループ活動	運動遊びの指導計画と製作		
5	クラス全員でのリハーサル	クリスマス会の流れを通して行う		
6	リハーサル後の手直しと通し	各グループに分かれ最終確認		
7~ 8	運動あそびの発表	あなかれほいくえんの子どもたちとクリスマス会を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育の中の運動あそび		総合評価	100.0%	<p>評価内訳 授業態度：60% 提出物：20% 発表：20%</p>

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現技術		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	鈴木 佳美
授業の概要				
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを音楽を通して豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
童謡の弾き語り(年少、年中、年長、春夏秋冬) 音楽理論 リズム打ち 合奏				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマハ音楽教室幼児化講師4年 ・障害児・障害者施設にて音楽療法2年 ・こども園にて、子育て支援、音楽指導1年 現在継続中 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法・指導法を教える		
時間外に必要な学修				
弾き語りで発表する曲の練習 合奏のパート練習				
回	テーマ	内容		
1~4	童謡合唱 理論 リズム打ち リトミック 合奏(グループ事に曲を決める) 弾き語り練習	アカペラで音程正しく、歌詞は覚えて歌う 復習 前に立ち、先生の役をする 先生の役をしてピアノを弾く(弾ける学生) パートを決め、音、リズムを考える		
5~8	グループに分かれ合奏の練習 発表する 弾き語り(季節事に選び4曲練習)	できればパート楽譜を作る 発表 時間に余裕があれば4曲発表 無理な場合、指定された曲を発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集		総合評価	100.0%	【採点内訳】 合奏 30% 弾き語り 30% 授業態度 40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅱ（保育所）		こども保育学科/2年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	選択	木曾 真理絵
授業の概要				
保育実習Ⅰでの経験とその後の学習をふまえて、自己課題をもち保育所の保育を実際に経験する。この実践を通して、生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を育成する。また、保育所の保育士に求められる資質・能力・技術を修得し、さらに自己課題を明確化していく。				
授業終了時の到達目標				
<p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取組み、理解を深める。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1～45	保育所の役割や機能の具体的展開 観察に基づく保育理解 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価保育士の業務と職業倫理 自己の課題の明確化 観察実習 参加実習 部分・責任実習 研究保育	養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 地域社会との連携 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅲ（施設）		こども保育学科/2年	2021/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	選択	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>これまで学習してきた理論を基礎として、福祉施設において生きた養護を学び、人間性豊かな保育士を育成する。保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これらの実践の中で家庭と地域の役割などに気付き、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を養う。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		相談援助業務5年 現場経験を活かし、施設実習についてアドバイスを行う。		
時間外に必要な学修				
実習中には、利用者理解を務める。 障害や児童の発達状況を理解する。				
回	テーマ	内容		
1～45	施設実習 観察実習 参加実習	<p>児童福祉施設等の役割と機能 施設における支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受容、共感の態度 ・個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 ・個別支援計画の作成と実践 ・子どもの家族への支援と対応 ・多様な専門職との連携 ・地域社会との連携 <p>保育士の多様な業務と職業倫理 保育士としての自己課題の明確化</p> <p>発達に適した保育・支援の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当指導者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	0単位(16時間)	選択	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>保育実習指導Ⅱでは、事前指導として、保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰ(保育所実習)、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅱに向けた準備を行う。具体的には保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。さらに、指導計画書の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、課題を明確にする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。 保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
実習で使える教材づくり				
回	テーマ	内容		
1~8	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援について		
	保育実践力の育成 計画と観察、記録、自己評価	子どもの状態に応じた適切なかかわり 保育技術を生かした保育実践 具体的な計画と実践		
	保育士の専門性と職業倫理	観察・記録・自己評価に基づく保育の改善		
	事後指導における実習の総括と評価	実習の総括と自己評価 自己課題の明確化		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度(提出物・発表含む) 70% レポート30%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅲ		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	0単位(16時間)	選択	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>保育実習指導では、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(施設実習)、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅲに向けた準備を行う。具体的には、子どもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家庭支援など保育と支援の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育実習の意義と目的を理解し、施設について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育・支援の実践力を修得する。 保育・支援の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育・支援の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育・支援に対する課題や認識を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		援助業務を5年 現場における施設実習の事前事後指導を行う。		
時間外に必要な学修				
実習施設の研究とともに指導案作成や教材準備 実習先のパンフレット、HPなどを熟読する。				
回	テーマ	内容		
1~8	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育(利用者の支援)と保護者支援について		
	保育・支援実践力の育成 計画と観察、記録、自己評価	子ども(利用者)の状態に応じた適切なかわり 保育・支援技術を生かした保育・支援実践 具体的な計画と実践		
	保育士の専門性と職業倫理	観察、記録、自己評価に基づく保育・支援の改善		
	事後指導における実習の総括と評価	実習の総括と自己評価 自己課題の明確化		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド		総合評価	100.0%	【採点内訳】 採点内訳 授業態度 70% レポート30%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育相談		こども保育学科/2年	2021/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
教育場面における相談援助の意義について学び、具体的な手法について知る。				
授業終了時の到達目標				
教育相談を行うにあたって基本となる心理学や支援に必要な「カウンセリングマインド」「アセスメント方法」について学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 保育現場におけるカウンセリングについて 経験を通して伝える。		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	教育相談とは	保護者の心を支える子育て支援の必要性和心の支援に必要なことを学ぶ		
2	心理療法	各心理療法についての概要について学ぶ		
3	カウンセリング技法	保育者の専門性としてのカウンセリングスキルについて学ぶ		
4	心理療法における技法	さまざまな療法について		
5	保護者とのかかわり方	保護者との接点と保護者との話し方について学ぶ		
6	養育困難を抱える保護者支援	虐待の定義と養育困難に陥りやすい保護者への支援について学ぶ		
7	発達に課題のあるこども支援	発達障害について学び、子ども支援について考える		
8	障害のある子どもを持つ保護者支援	障害のある子どもを持つ保護者への支援のポイントをつかむ		
9	精神疾患と保護者支援	精神疾患の概要と精神疾患を持つ保護者への支援方法について学ぶ		
10	子育て支援とSGE	保護者会における構成的エンカウンターグループの活用について学ぶ		
11	事例検討	登園しぶり事例		
12	事例検討	いじめ事例		
13	事例検討	発達に課題のある子ども支援についてロールプレイ		
14	事例検討	虐待事例		
15	振り返りと確認テスト	振り返りと確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子育てカウンセリング		総合評価	100.0%	【採点内訳】 科目終末試験90% レポート10%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習 I		こども保育学科/2年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。 ・ 子どもの教育について総合的に学ぶ。 ・ 指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・ 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 				
授業終了時の到達目標				
<p>幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年勤務 現場経験を活かし、実習指導を行う。		
時間外に必要な学修				
実習で使用できる教材作成				
回	テーマ	内容		
1~45	幼稚園実習 観察実習 参加k実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。 ・ 遊び、生活場面での園児の行動理解 園児の行動に対する幼稚園教諭の対応 <p>保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。 職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 安全及び、疾病予防への配慮を理解する。</p> <p>発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト(近大)		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。 ・子どもの教育について総合的に学ぶ。 ・指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取組み、理解を深める。 ・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理を明確化する。 <p>幼稚園における教育実践について専門教育科目を獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。達成するために第2回実習では、部分・研究保育を主とする実習を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。 自己課題の明確化。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場経験を活かし、実習のアドバイスをを行う。		
時間外に必要な学修				
実習先の子どもたちに沿った遊びを考え、どんな流れで保育を提供するのかを考える。 また、保育現場での必要な教材を作る。				
回	テーマ	内容		
1~45	幼稚園実習 観察実習 参加実習 部分・責任実習 全日実習 研究保育	<p>1回目の実習を基礎と、専門教育科目で学習したあらゆる知識、技術を統合しながら以下の内容を獲得していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。 ・遊び、生活場面での園児の行動理解 ・園児の行動に対する幼稚園教諭の対応 ・部分実習、全日実習、研究保育の指導計画の作成及び指導 ・幼稚園教諭としての保育技術の習得および態度の養成 ・幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解 <p>保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。 職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 安全及び疾病予防への配慮を理解する。</p> <p>発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める。 担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼稚園教育要領		総合評価	100.0%	【採点方法】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育演習Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
保育現場で生かせる保育者としての専門的な技術(パネルシアター・ペープサート・紙芝居・ゲーム等)を習得する。また、近隣の保育園や幼稚園にて実践な保育を経験し、保育者としての技術のみならず子どもへの言葉かけや立ち居振る舞いなどを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
授業を受ける中で、自分の保育技術のスキルを上げる。また、教材を作るだけでなく、何度も練習を重ね自分のものにする。現場での保育者の立ち居振る舞いや、言葉遣いを学ぶ。子どものひきつけ方を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として幼稚園に勤務 10年 保育士として保育所に勤務 15年 幼稚園・保育所において幼児体育指導 25年		
時間外に必要な学修				
授業中に学んだ手遊び、歌遊び、リトミック、ダンスなどを家でも練習し、自分の保育に活用できるようにする。				
回	テーマ	内容		
1	保育演習Ⅱ	保育演習で学ぶ保育実践技術について		
2~15	保育技術と実践	保育現場で役に立つ教材づくり、保育技術のマスター、グループで行う保育指導計画作成、事前準備、練習等を含め、現場で役に立つ実践的な技術を学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業参加姿勢 60% 提出物・発表 40%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
卒業研究		こども保育学科/2年	2021/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
今まで経験した実習先で感じ、こどもに学んで欲しいこと、興味を持ってほしい内容を考え、各自オリジナルのエプロンシアターを作成し、後輩の前で発表する。				
授業終了時の到達目標				
保育実習と教育実習を振り返り、子どもたちに何を伝えたいのかを考え、オリジナルエプロンシアターを作成。 こどもが喜ぶポイントを自分なりに工夫して作成する。 人前にでて、伝えることの難しさを体験する中で、今後の課題を見つけ出す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場経験を活かして、子どもに伝わる発表の仕方などを伝える。		
時間外に必要な学修				
エプロンシアターの専門書やインターネットを使って、子どもが喜ぶ工夫ポイントを自分なりに研究する。				
回	テーマ	内容		
1	保育所と幼稚園の振り返り	実習で出会った子ども足りる振り返る		
2	ねらい	子どもたちに何を伝えたいのかな?		
3~ 4	エプロンシアター	子どもにとってエプロンシアターとは? 作り方から演じ方		
5	脚本づくり	脚本作りと場面構成		
6~ 10	制作開始	制作開始		
11~ 12	練習	練習と修正・改善 グループワーク		
13~ 15	発表	発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 制作姿勢30% 発表とレジメ提出 70%

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習事前事後指導Ⅱ		こども保育学科/2年	2021/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
教育実習の事前・事後指導として、幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解したり、各科目で習得した知識や技能と教育実践とを具体的に統合することにより教育実習に対する意欲や課題意識を高めることをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
実習に臨む姿勢を学ぶ。実習に対する不安を解消する。 日誌の記録と指導案作成ポイントを理解する。 実習を振り返り、今後の課題を見つける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として10年勤務 実習に臨む姿勢、現場で役に立つ保育内容や技術について現場の目線から伝える。		
時間外に必要な学修				
幼稚園で役に立つ教材づくり。(年齢に応じた)				
回	テーマ	内 容		
1	教育実習とは	現場で学ぶということ 幼稚園とは (意義及び目的・目標)		
2	実習に臨む姿勢	実習の流れを理解する 事前準備について		
3	実習記録と指導案の書き方	実習生として気を付けること 日誌・指導案作成について		
4	〃	個々の質問に答える		
5~ 6	実習事後の振り返り・発表	実習事後の振り返りと自己評価 今後の課題		
7	2回目の実習に臨む	個々の課題に取り組む		
8	実習事後の振り返り・発表	実習事後の振り返りと自己評価 今後の課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育実習事前事後指導		総合評価	100.0%	【採点内訳】 採点内訳 授業態度(提出物・発表含む) 70% レポート30%